

池田町地域創生有識者会議（第3回）議事録

（小川企画課長）

皆様、ご苦勞様です。第3回池田町地域創生有識者会議を始めたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。それでは、岩谷座長よろしくお願いいいたします。

（岩谷座長）

皆様、こんにちは。お忙しい中、このように、委員の皆様にご出席いただき、池田町地域創生有識者会議の第3回会合を開かせていただきますので、有り難く思っております。

それでははじめに、今回有識者会議委員の中日新聞揖斐川通信部兼大垣支局の加藤拓様から、人事異動に伴い廣田和也様に変更がありましたので、ご報告させていただきます。また、教育分野の区分より委員をお願いされております国枝磨須美様は、池田町教育委員から池田町教育長に就任されましたので、ご報告させていただきます。本日は、議事の終わりに協議していただいております「人口ビジョン（案）」と「池田町版総合戦略（案）」を15時20分頃、町長へ答申する予定をしておりますので、よろしくお願いいいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。まずは、本日の会議の流れを御説明申し上げます。本日は議題1「人口ビジョン（案）について」を事務局から説明をいただいた後、議論したいと考えております。その後、議題2「ワークショップの活動報告」について、事務局から説明いただいた後、質疑応答の時間をとりたいと考えております。休憩を挟みまして、議題3「池田町版総合戦略（案）について」を事務局からの説明後、議論したいと考えておりますので、よろしくお願いいいたします。それでは、本日の議題の1つ目について、事務局からの説明をお願いします。早田理事。

（早田理事）

はい、それでは資料1の「人口ビジョン（案）」について説明させていただきます。座って説明させていただきます。よろしくお願いいいたします。前回の「人口ビジョン（案）」からの変更点を中心に、説明をさせていただきますと思います。

人口ビジョン、総合戦略につきましては、「いかに多くの町民の方々に見ていただけるかが大切である」と、石破大臣や小泉元政務官から話がありました。そういった観点で、少しでも読みやすいようにということで、前回細かい表ですとか、数字があるところがございましたので、そういったところを修正させていただきました。内容につきましては、一番後ろに飛びますけれども、池田町の目指す姿が9ページにございます。9ページの「5. 池田町が目指す姿～2060年に人口20,000人の活気溢れる町～」とありますが、これが池田町が目指す姿でございます。そのために、2つの目標を達成したいと思っております。1つ目が「目標1 2030年に合計特殊出生率1.80を実現する」ということでございます。合計特殊出生率1.80というと、具体的に何人ぐらい子どもが生まれ

ばよいか、どれぐらいの方が結婚されればよいかという実感が湧きづらいため、出生数を追加として載せました。具体的に申しますと、2030年の出生数が221名となれば、合計特殊出生率1.80を実現することになります。現在池田町では180名前後の方が毎年生まれていますので、40名程増えることを目指していきたいと思っております。もうひとつ、婚姻率につきましては、2008年から2012年における婚姻率の平均値が、4.3%でございました。ただ全国的には5%後半ぐらいになっておりますので、池田町としてはもう少し改善の余地があると考えております。具体的には、合計特殊出生率1.80を目指していくためには、婚姻率5.1%、これは婚姻される方而言いますと119組を目指していきたいと考えております。これも現状の数字でいきますと、大体90組前後となっておりますので、もう少し増やしていく必要があります。

10ページをご覧ください。目標の2つ目は「2015年から2020年という5年スパンで見た時に、10代・20代・30代の社会増減数プラスマイナスゼロ」であります。何故10～30代に焦点を当てたかというところがございますが、社会増減について年代別に分析しますと、実は40代以降というのは今までの過去の推移を見ていきますと、それほど大差はございません。一方で、10代・20代・30代は、時代によってかなりバラツキがございます、プラスになっている年ですと、全体として社会増となっておりますが、一方、マイナスになっている年になりますと、全体として社会減になっているということで、特に池田町の場合だと10～30代の影響が大きいことがわかります。グラフ8の「池田町における年齢別の社会増減数」というところで、色別に年代別の数字が出ていますが、10～30代まではバラツキがある一方、30代以降は一定になっていることが見てとれます。10～30代の社会増減プラスマイナスゼロというのを維持することで、人口減少や少子高齢化に歯止めを掛けていきたいと思っております。

高齢化率については、10ページ目をご覧ください。グラフ11で、2つの目標を実現することで高齢化が止まることが分かります。もし何も対策を取らない場合、この青い線のように、どんどん高齢化率が上がってまいります。目標1、目標2を達成できた場合、大体2040年頃に32%代に入って、そこから横ばいになっていく、高齢化率に歯止めがかかる姿になっていきます。こういった姿を目指していきたいと考えております。説明は以上になります。よろしく申し上げます。

(岩谷座長)

ありがとうございました。それでは、御質問や御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(サンビレッジ 小林)

いいですか。質問や意見という訳ではないのですけれども、これはある意味で、こうすればこうなるという仮説みたいなものですね。具体的にどうするかというのは、今から

総合戦略の説明でお話されるのでしょうか。

(早田理事)

具体的にどうするかについては、総合戦略の方で説明させていただきます。

(岩谷座長)

よろしいでしょうか。それでは概ね、2060年に人口20,000人を維持するという基本方針については御賛同いただけたと思っております。今回の素案を最終案とすることと決してよろしいでしょうか。

【異議なし】

(岩谷座長)

それでは、最終案とすることに決めます。それでは、本日の議題の2つ目である「ワークショップの活動報告」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。早田理事。

(早田理事)

はい、それでは「議題2 ワークショップの活動報告」について、説明させていただきます。「アイデア工房会議通信・池女会通信第4号(2015年10月15日)」と題されている資料をご覧ください。こちらは、アイデア工房会議と池女会に参加してくださった皆様にお知らせをした資料でございます。アイデア工房会議・池女会は、9月中旬の第5回目をもって終了しまして、その後、9月25日に中央公民館で合同発表会を開催しました。

全部で、池女会の方では4チーム、アイデア工房会議の方では5チームあります。各チーム、1つ2つ考えたプロジェクトを発表していただいて、皆さん発表している時の様子は、とてもいきいきして楽しそうに話されている方がたくさんいらっしゃいました。その時の様子が、後ろの方に写真をつけさせていただいております。そこから出てきたアイデアは、15のアイデアがございます。アイデア工房会議の方では10のプロジェクトが、池女会の方では5のプロジェクトが出てきました。これらについては、「議題3」としてあります「池田町版総合戦略(案)」の方でより詳しく掲載しておりますので、後ほど詳しい説明をさせていただきます。ここでは表題だけ紹介しますと、アイデア工房会議では、産業チームから「6次産業化」のプロジェクトや、「IT・SNSを活用した特産品の情報発信」のプロジェクトが出てまいりました。もうひとつ、「企業誘致計画の立案」をしていこう、町として立案していこうというプロジェクトも出てまいりました。4番目については、前回の有識者会議でいろいろアドバイスをいただきました観光についてのプロジェクトでして、それについてもひとつ形としてまとまっております。5番目は移住定住に関するプロ

プロジェクト。6番目は、職業体験・キャリア教育を新たにつくっていく、もしくは既存のものを改善しながら地域の児童・生徒に対して郷土愛を育めるような内容にしていこうというものでございます。7番目、「子どもの居場所づくり事業」というのは、これは不登校対策の一環として、不登校に悩まれているお子さんや、あるいは親御さんの居場所を作っていこう、相談できるような場所を作っていこうという内容でございます。8番目の「街を明るくするプロジェクト」、こちらは、現在池田町が夜になるととても暗い町なので、灯りを灯したらどうだ、行灯を作ってみんなで町を飾ったら、すごく綺麗になって素敵になるんじゃないか、というお祭りのようなプロジェクトでございます。9番目の「空き家ワンコインカフェ」、そして10番目の「ライフサポート強化事業」については、福祉チームから出てきたアイデアでございます。これは、老人、お年寄りの方々が、年を取っても元気で健康に、自宅で生活できる姿を目指しておりまして、そのためにも日頃からコミュニケーションを取れる場所を月に1回、もしくはもう開催されているものもあると思います、そういったものとは別に、日常的に集まれる場所をつくったらいんじゃないかという意見がございまして、それが「空き家ワンコインカフェ」でございます。「ライフサポート事業」というのは、今町内でもNPO法人が実際にやっている活動でございますが、自宅における生活の困ったこと、例えばゴミ捨てであったり、庭の草むしりであったり、簡単な掃除であったり、そういったことは自力でできない、だけど自宅で生活していきたい、そういうご老人の方々のサポートする事業でございます。これをもう少し周知して行って、より多くの人に活用していただけたらどうか、という内容でございます。池女会の方では、5つ出てまいりました。11番目は結婚のプロジェクト、これは若者の出会いの場をもっとつくっていこうという内容でございます。12番目の子育てについては、これは子育てに悩まれるお母さん、色んな不登校の子を抱えてしまったお母さんであったり、障がい児を抱えるお母さんであったり、色んな立場を抱えているお母さんがそれぞれ悩みを抱えられている状況がある中で、そういった人達が気軽に相談をできる場所、そういうのを経験されてもう解決されたお母さんにとっては「あの時こんな情報があれば良かったのにね」というような声がたくさんありました。そういう今まさに困っているお母さん達を助けられる場所、相談できる場所をつくっていきたいというのが「ママカフェ」というプロジェクトでございます。13番目の「達人から学べ!」、そして14番目の「I love Ikeda」、15番目の「ショートフィルム・YouTube」というのは、これは日常生活Aチーム、そしてBチームから出てきたアイデアでございますが、池田町内における人と人とのつながりが弱くなっているのではないかと、あるいは、池田町民の方が、池田町の良さをいまいち認識できていなくて、情報発信が上手にできていないのではないかと、そういったところから出てきたアイデアです。例えば「町内にいる達人の方と参加者の方のつながりをつくっていこう」であったり、あるいは、「町の人達が町の良さを発見して、それを雑誌や、ショートフィルム、簡単な動画のような形で、まとめて発信をしていったらどうだろう」という内容でございます。9月25日の発表会がありまして、一旦アイデアが出たというところでは

終わったというところですが、もともとこの池田町の地方創生における特徴というのは、町の人達と一緒にプロジェクトを考え、考えたアイデアと一緒に実行していこうというところが肝でございませう。それが、他の市町村にはないところだと考えております。なので、ここで終わりということではなくて、この15のプロジェクトの内、7プロジェクトにつきましては、平成27年度の、まさに現在申請している上乗せ交付金を活用してやっていきたいと思っております。それを進めていくために、じゃあ町の人達と行政の人達と一緒にやっていくにはどうすればいいんだろうか、というところを考え、動き始めているという状況でございませう。具体的には、裏面をご覧くださいませうと、全15プロジェクトの内7プロジェクト、全ページで下線が引いてあるものでございませうが、これについては27年度中に実施していくために、各プロジェクトを担当する役場職員5名を決めました。この5名の人達がそれぞれのチームごとに、例えば「どういう形で町の人達を巻き込みながら一緒にこのプロジェクトを進めていくか」というところを話し合っ、まさに今町民の人達、特に池女会とアイデア工房に参加して下さった人達なのでございませう、「今度こういう打ち合わせをするのでやりませうか」というお声掛けがされているところで、今週から個別プロジェクトごとに少しずつ話が進んでいくという状況にあります。そういった事業の進捗状況については、少しでも多くの皆様に知っていただけたらいいなと思っております、引き続き情報発信をしていきたいと思っております。以上が、ワークショップについての報告と現状の説明になります。よろしくお願ひします。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。それでは、個々で御質問、または御意見等がありましたらお願ひを致します。はい、馬田さん。

(岐阜新聞 馬田)

岐阜新聞の馬田です。プロジェクト推進のために、町の職員の方を5名決めたとありますが、役職としてはどれぐらいの役職の方になるのですか。

(早田理事)

その5名の構成ですが、リーダーは課長級の方です。例えば産業のプロジェクトだったら、産業課の職員が1人入ります。もう1人は、池女会やアイデア工房でスタッフとして入っていて、経緯を知っている人になります。あとの2人は、課の中のバランス、どうしても事業毎に見ていくと、この課が多い、もしくは少ない、という偏りが出てきますので、そのバランスを見て決めました。

(岩谷座長)

他はいかがですか。はい、廣田さん。

(中日新聞 廣田)

中日新聞の廣田と申します。8月からこちらに赴任しました。よろしく申し上げます。町民からアイデアを募ると言いますと、来年度、再来年度以降はどういう計画があるのでしょうか。

(早田理事)

池女会・アイデア工房については、参加者の皆様からは「ずっとこういうのがあるといね」という話がありました。来年度、同じような形でこれをやるかどうかというところは、まだ決めていません。と言いますのも、15プロジェクトが上がっておりまして、それを実際に実施していくことが大切だと思っています。その15がまだきちんとできない中で新たにこうアイデアの募集をしてやるとなると、生煮え感があるのかなというところを懸念していますので、来年度以降どういう形でこういう会をやっていくというのは、今後の検討課題とさせていただきますと思っています。

(岩谷座長)

はい、よろしいですか。他、いかがですか。はい、小林委員。

(サンビレッジ 小林)

前のこの「職業体験・キャリア教育を通じて郷土愛を育む」とありますけれど、すごく良いと思うのですが、それで郷土愛を育むというのがわからなくて、そこで職業体験とかキャリア教育だと、自分の将来とか町の仕事とかを勉強しますね、それで結果的に郷土愛が生まれるかもしれないけども、あくまでも児童生徒が自分の適性とか興味とかできることとか、それからそれを発見してくれた大人達とのコラボレーションの過程で、大人に対する信頼感とか、感謝の気持ちとか、そういうのを学ぶのかな、と思ったんですけど、急に郷土愛と出てくるのは、どういうことなのでしょう。

(早田理事)

はい、小林委員がおっしゃることと、ニュアンスはすごく近いんですけども、子どもたちが池田町でいきいきと格好良く働いている大人に接して、池田町にはこんな仕事があるんだ、こんなに格好良く活躍している人がいるんだ、というところを知っていくことを通じて、池田町ってすごいね、池田町に恩返ししていきたいね、そういう姿を目指していきたいと思っています。その郷土愛というのが、結果的に生まれるものだと思います。

(サンビレッジ 小林)

そういう目的でなくて、あくまでもキャリア教育等の成果で、地域をよく知るとか、

仕事を知るとか、そういうことですか？

(早田理事)

そうです。この事業の目的は、子どもたちの将来の選択肢の1つとして、池田町があるんだということを知ってもらうことです。

(サンビレッジ 小林)

わかりましたけど、こういう書き方がいいのかなとは、思いますけれども。

(早田理事)

はい、わかりました。

(岐阜大学 富樫)

じゃあ、よろしいですか。

(岩谷座長)

はい。

(岐阜大学 富樫)

岐阜大学の富樫ですけれども、他の町も少しこういう会議にも関わらせていただいているのですが、やはりこの池田町の場合には、住民皆さんの手で話し合っ、町とも一緒になって、計画をつくりあげるといふようなところが、非常に画期的な形でないかなと思っ
ています。それで、もう少し希望といふか、提案といふような形なのですけれども、この
ような町民の皆さんとか、とりわけ女性の皆さんの活動等を、是非今言われたように、子
どもさん達にも知って欲しいと思います。自分の親や回りの人達が、こういう形でまちづ
くりに取り組んでいるといふことを、小学生、中学生、高校生、大学生はちょっと微妙で
すけれども、そういう人達が知ること、
「じゃあ自分たちもできるんじゃないか」と、将
来色々就職したり、どっかに学びに行くことがあったり、また池田でこういうふう
に頑張れるんじゃないかといふ形を、文字通り目の前で見せてくれるんですね、是非
そういう形につないでいただければ、この活動を次の世代に受け継いでいただけるの
かなと思います。それから提案の中で、子育てとか結婚もあるかもしれませんし、先
ほど小林先生が言われた通り、人口の推計の数字と、実際に個々の住民がどこに
住むとか、誰と一緒にいるだとか、どこで子育てをするだとか、そういう具体的
な姿ですよね、数字は数字でこういうのを目指したいとなるのですが、それは1人1
人がこうやっていくことの積み上げの上に、先ほどの数字が出てくるわけです
から、人口ビジョンは人口ビジョンで、総合戦略は総合戦略でつくるのはつくる
のですけれども、それをもう少しリンクする形になって、イメージ

ジが具体化されるといいんじゃないかなと思います。とりわけ、池女会のように、若い女性の人達がここにいるということが、今の消滅可能性自治体にならないための一番のポイントです。一番大事なところですので、そこが一番活かせるといいんじゃないかなと思います。

(岩谷座長)

はい、有り難うございました。他、いかがですか。はい、竹中さん。

(民生委員 竹中)

民生委員の竹中と申します。先回の報告を、全てのグループでなかったのですけれども、聞かせていただいて、非常にこう何回もミーティングやられて、何人かの方が色んなアイデアを出されて、非常に聞いていて、面白いと言ったら語弊があるかもしれませんが、色んなアイデアをつくっていただいているなと思いました。色々聞かせていただく中で、過去にあまりそういうことを考えていなかったようなことがあったりすると、とは言ったって「そんなことできるのかな」等と思ったこともあるのですけれども、池女会等とかでメンバーが最終的に集まった方が、例えば自分から集まって手を上げた方ばかりなのか、あるいは「お願いされてやっているよ」って集まっている方なのかね、そのへんは私、全体は分からないのですけれども、ただせつかくこういう良いアイデアを考えているという中で、要するに「池田町の将来のために本当に面白いことやろうよ」ということを、町民に広く宣伝する必要がある。それこそ自分から手を上げて、「私もそのグループに入りたい」と言うような人が出てくるような、宣伝というのですかね、そういうところをもう少しやっていくとこう全体的に盛り上がるのではないかなと思います。私も色んな会だとかグループだとかに参加させていただいているのですけれども、どちらかというとそれぞれ単独で行事とかをやっているというのが現状なのですが、今回の計画の中に「全員一丸となってやっとう」という中で、具体的なことを進めていこうとなると、やっぱり町民みんなが、そういったことを承知していることが良いことじゃないのかなというふうに思いますね。ぜひ広報等、考えていただきたいなと思います。

(早田理事)

PR につきましては、富樫委員からも子どもたちに是非というご提案がありましたので、そういったことも含めて、町のあらゆる機会でも PR できるようにやっていきたいと思っております。

(岩谷座長)

他、いかがですか。よろしいですか。このワークショップの報告に関しましては、報告を了とさせていただいてよろしいですか。それでは、了とさせていただきます。ここで5分程度、14時5分まで休憩とさせていただきたいと思いますがよろしいですか。では、

休憩とさせていただきます。

【休憩】

(岩谷座長)

それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議致します。本日の議題の3つ目である「池田町版総合戦略（案）について」ご説明を願いたいと思います。早田理事。

(早田理事)

はい。それでは議題3「池田町版総合戦略（案）」について説明させていただきます。こちらが今日の本題となると思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。まず、ちょっと丁寧に説明させていただきます。1ページ目をご覧ください。目次からいきますと、全部で6章の構成にしております。第1章では総合戦略策定の経緯として、何故今回これを策定することになったのか、という経緯を記しております。第2章では、池田町における総合戦略策定の進め方ということで、じゃあ池田町ではどうやったのかというのが第2章でございます。第3章は、池田町をとりまく現在の話題について記しております、これらを受けて第4章では池田町が目指す大きな方向性について記をしております。その方向性に沿って、具体的にプロジェクトをどうやって進めていくのか、ということが第5章に記しております。各プロジェクト、15プロジェクトが個別にバラバラバラとしていると、ちょっとイマイチまとまり感がないというところがありましたので、前回中日新聞の加藤さんであったり、富樫先生であったり、ご指摘があったように全体的なストーリーが見えるといいねというところについて、最後の第6章の「終わりに」というところで、姿を示しております。こういった構成になっております。まず第1章、1ページ目のところからまいります。総合戦略策定の経緯として何故地方創生が出てきたのかというところでございます。こちらはみなさんご存じのとおり、2014年、昨年5月に元総務大臣であった増田寛也が2040年までに約半数の896体の自治体が消滅するという衝撃的なレポートを発表しました。これは具体的な自治体名も公表されまして、それがショッキングなニュースとして広まりまして、そこから先、安部内閣においても「地方創生は最重要課題である」という発言が随所でなされました。そして国の方でも、2014年の夏に地方創生担当大臣が設置されまして、新組織である「まち・ひと・しごと創生本部」も立ち上がりました。さらには11月には法案が成立し、国版の総合戦略が策定され、今年度中に人口ビジョンと地方版総合戦略を策定するように努めなさいと言われてきました。こういったものが今回契機、発端となっております。よく石破大臣がこれまでの地方施策と今回の地方創生となりが違うのかというところを話しています。田中角栄内閣の「日本列島改造論」、あるいは大平正芳内閣の「田園都市国家構想」、竹下登内閣による「ふるさと創生事業」がございましたが、これらがあった時代というのは、まさに高度成長期、人口は右肩

上がり、土地の価格も上がり続ける、経済も発展し続ける、そういう時代でした。ただし、今は2011年以降、日本の総人口というのは、ついに頭打ちから減少に入り始めました。今後、どんどんどんどん、人が減っていきますと、2100年には5000万人を割り込む推計もされています。こういったちょっと時代背景が違っておりました、もしここで何もしなかった場合、国家の三要素である、領土・国民・主権、このうち国民がいなくなるということは、日本国が無くなることだ、という危機感を持って、各自治体が取り組んでいく必要がある、そういう強い決意と覚悟が今回あるということがこれまでのものと違うところでございます。これまでが覚悟がないということではないのですけれども、時代背景が違うというところが大きく違うところでございます。地方創生については、3つの基本的視点・目的がありまして、1つ目は東京一極集中の是正、2つ目は若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現。3つ目は地域の特性に即した地域課題の解決でございます。これをやるために具体的にどうやればいいんだという4つのポイントがありまして、1つ目は産・官・学・勤・労・言・住民の、幅広い参画を得ながら総合線戦略を策定すること。2つ目は勘・経験・思い込みではなくて、データに基づいて地域課題を抽出し、総合戦略を策定すること。3つ目は施策目標を数値として設定し、その進捗状況を検証して、改善する仕組みを確立していくこと。4つ目は、各地方公共団体がそれぞれの取組ではなくて、連携しながら取り組むことも視野に入れていくこと。こういったことが、ポイントとして示されました。それを受けまして、2ページ目に行きまして、池田町ではどうやってきたかというところでございます。池田町では平成22年に「第5次池田町総合計画」を策定しました。そして、岡崎町長はよく「まちづくりは、ひとづくり」という言葉を随所で発言しております。「第5次総合計画」でも「いきいきと市民がつながり、夢が持てる自然都市」を目指していきますと、されております。こういったものを目指したものとして、具体的なこういったものにつながるようなプロジェクトをここでもやっていきたいと思っております。計画年度については、平成27年から31年、国が示している5年間と合わせております。池田町における実施体制としては、皆さんにご説明させていただいたワークショップを開催しながらやっているというところが大きな特徴でございます。そこで出てきたアイデアを役場、あるいはこの場で皆様と一緒に磨きながらまとめていく、そういう形をとっているところでございます。3ページ目につきましては、具体的な「アイデア工房会議」と「池女会」のスケジュール、そして進め方のところでございます。「アイデア工房会議」では、ご存じの通り、教育・福祉・産業・観光・移住定住という5つのテーマを扱って、全40名の方に応募していただきました。「池女会」の方では、結婚・子育て・日常生活というテーマで、28名の女性の方々に出席をいただいております。これを9月25日に発表会をしたところでございます。続きまして4ページをご覧ください。池田町をとりまく課題でございます。「アイデア工房会議」「池女会」の意見、特に各チームからよく出てきたなあという印象的なものを3つ上げさせております。1つ目、池田町民が町のことを当たり前と捉え、良さに気づいていないため情報発信が苦手であるというところ、

2つ目は多世代間など、人と人のつながりが弱いと感じている方がいらっしゃるということ、3つ目は農業などの稼ぐ力が弱くて、担い手が減りつつあるというところ、でございます。一方、地域経済分析システムという国が各自治体に情報提供しているビックデータがございます。こちらを分析しまして、できたというものが人口ビジョンでも示しましたことございまして、池田町の人口減少というのは社会増減より自然増減によるものが大きいこと、自然減が進行する原因として、特に池田町の場合ですと婚姻率が低いこと、そして池田町の社会増減層は10～30代の影響が多いこと、これは観光の話になるのですが、休日の池田町における滞在人口、滞在人口というのは2時間いけば滞在人口としてカウントされるものなんですけれども、桜が見頃となる3月頃というのは大体4万9千人おります。一方で、他の月を見ていきますと、大体4万人前後から4万5千人ぐらまでということで、1～2割減っているという状況が見えました。こういったデータに基づいて、先ほど人口ビジョンと総合戦略をどうリンクさせていくかが大切だという話がありましたが、こういう現状に基づいてプロジェクトをやっていきたいと思っております。3つ目は、この町が実施した調査というのは、「第5次総合計画」の中間見直しの年にちょうど今年当たっております、その時に調査をし直したものがございます。その結果を見ますと、1つ目では身近で目標とする大人がいると思っっている小中学生の割合が減っていたり、あるいは地元で働きたいと思っっている若者の割合が、もともと6.3%と低い割合だった数字が、更に3.2%と低くなっていたりすること。さらに3つ目では子育て中の人で相談にいける場がある人の割合が減っていること、4つ目が、退職者が日常的に行ける場所があると思っっている高齢者の割合が減少しているということが見て取れました。そこで池田町としては、どういう姿を目指していくか、というところでございます。大きく5つの柱を考えております。1つ目は、池田町に仕事をつくり、町民が安心していきいきと働けるというところでございます。こちらは平成24年の総務省・経済産業省がまとめている経済センサスというデータがございまして、2012年における池田町の従業者数というのは7550人でした。実はこの3年前の2009年というのは、8500名ほどおりました。この3年で、何がちょっとあったのか、私もまだ謎なんですけど、約1000人ぐらい減っているというところがございます。そこに歯止めをかけて、2018年今から3年後の時に、またデータが出ますので、そこで8000人というところをしていきたいと思っしております。そのためにやることというのは、「6次産業化」第1次産業と加工・販売業者をマッチングして収益を稼いで仕事としてなりたつようにしていくこと。2つ目は、IT・SNSを活用した特産品の情報発信、3つ目は企業誘致計画の立案でございます。5ページ目をご覧ください。2つ目の柱としましては、町民が町に愛着を持ち、PRできるようになることで、新しいひとの流れをつくるというところがございます。2013年において、「岐阜県観光入込客統計調査」によりますと、池田町は102万人来ております。実は5番目にもつながる話なんですけれども、池田町だけではなくて、西濃全体として観光に力を入れていこうということで、西美濃観光協議会というものがございまして、そこで

も、西濃地域における観光客数のUPをしていきたいというふうを考えておきまして、そこに池田町が貢献する一条となるように、観光客数を、104万4000人を目指していきたいと思っております。具体的なプロジェクトとしては、「池田山を活用した体験交流ツアー」の実施、そして情報発信のこの3つのプロジェクトを考えております。3つ目の柱としましては、若い世代の結婚・子育ての希望を叶えるというところでございます。この目標としては、合計特殊出生率を実現したり、あるいは婚姻率を上げるというところを考えています。このためにどういうプロジェクトをやっていくか、というところで、1つは結婚に焦点を当てた「まる和プロジェクト」。これは若者のコミュニティを活性化、若者が集まる同窓会であったり、イベントであったり、そういう場をつくっていくことで、出会いの機会を増やして、結婚につながるチャンスを増やしていこうと、そういう事業でございます。もうひとつは、「ママカフェ」誕生から自立まで子どもと親に寄り添う場づくりというもので、これは子育ての悩みの解消を目指して、池田町は子どもを産みやすいんだ、2人目、3人目も大丈夫なんだ、そういうまちづくりを目指していくための事業でございます。4つ目が中高生と社会をつなぐなど、時代にあった地域をつくるというものでございます。中高生と社会をつなぐというのは、まさに先ほど小林委員からもご指摘があった、キャリア教育や体験教育の授業を通じて、池田町の子どもたちに池田町での仕事、あるいは西濃地域も含めて視野に入れて良いと思っておりますが、そういった仕事を知っていただくということを通じて、10～30代の社会増減数、東京や名古屋に出る子どもたちを少しでも池田町やこの地域の仕事の良さを知ってもらって、歯止めをかけるということをやりたいと思っております。5番目が、広域連携により圏域の新たな魅力をつくるというところでございまして、こちらは西美濃地域に共通して3市9町連携をして取り組む内容でございます。続きまして、第5章でございます。6ページにまいります。前回の有識者会議では、平成27年度にやる予定だという、7つのプロジェクトがあるという話をさせていただきました。それについて、前回その概要をお伝えさせていただいたところでございます。それに加えて、プラス8、今回加わっていますので、1つずつ、順に見てもらいます。1つ目につきましては、これは第1次産業と加工販売業者とのマッチングの促進をするというものでございます。この背景としては、町内の第1次産業のデータを見てみますと、販売金額も従事者数も減少していることが分かりました。そのために、これを防ぐ1つの方法としては、生産者の取得を増やすために、6次産業課をするということが考えられるのですが、現在の第1次産業者の方々は、加工や、販売については専門外であるというところで、そこが自力でやるのが困難だという話がありました。そこでその役場は、生産者、加工業者、販売業者のマッチングを進める機会をつくって、付加価値の向上や、販路開拓を目指すものでございます。具体的にやる内容としては、これは来年度以降取り組みたいと思っておりますが、まずは町内に第1次産業従事者の方々に、6次産業化のことをまず話し始めるところから必要があると思っております。これを実際にやっていくとなりますと、本当に池田町だけでやるのがいいのか、もしくは名

古屋のような場所でマッチング会が実際に行われていて、いろんな町と協同しながらやっていくというようなケースもありますので、そういったやり方も探りながら、マッチング会への参加を加工業者・販売業者にも呼びかけていきたいと思っております。この目標としましては、1番下に解決した姿、KPI というものがございます。最終的な目標としては、農産物の販売金額、1事業所あたり、経営体あたりの金額が今は143万ですけれども、1割アップをまずは目指していきたいと思っております。働く人の数も2012年の68名というところなんですけど、これも少しずつ積み重ねていって、1~2割アップの80人を目指していきたいと思っております。すみません、6ページの下にタイトルが入ってしまっていますが、2つ目の事業はIT・SNSを活用した特産品の情報発信でございます。こちらは27年度にやるものでございます。これは前回説明した内容から、変更はございません。販売をする情報発信をするサイトの構築を通じて、販売手段を増やしていきたいと思っております。次に、8ページ目をご覧ください。こちらは来年度以降に取り組みたいと考えているものですが、企業誘致計画の立案でございます。税収増、あるいは雇用の確保を目指す施策として、企業誘致はひとつの大きな手段であると考えられます。これまでの企業誘致というのは、個別的な話が発生した時に、「じゃあどこがいいかな」という検討をしながら、という町の姿勢だったのですけれども、今後は町から企業に対して積極的に提案をしていく必要があるのではないかという話がありました。それをするためにはまず企業の方が求める情報であったり、国や県がどういう支援メニューがあるかということであったり、池田町に呼んでくる場合、どういう土地が考えられるかというところを整理した上で、ターゲットを絞って提案をしていくということが大切だと考えられます。それをするための情報整理や、計画をきちんとつくって、実際に誘致活動をやっていくところが、この事業の目指すところでございます。続きまして、9ページ目をご覧ください。こちらは「いい塩梅のまち」池田山を活用した体験交流ツアーの実施と、しております。前回、特に長野委員からは、観光についての色々なアドバイスをいただきました。その中で、今の観光というのは、体験・交流・学びが重要なんだよと、農業体験という話もあるし、国についてもいろいろな補助があるんだという、そういう話がありました。このチームではその後に、じゃあ具体的に池田町でどういうツアーができるかというところをいろいろ考えてきました。その中で、春だったらこういうもの、夏だったらこういうもの、という季節別、さらに若い方々にはこういうもの、年配の方々向けにはこういうものという年代別にプロジェクトを考える、ツアーを考えるというのをやりました。このプロジェクトの目指すところというのが、少しでも池田町に体験・交流で訪れてくださる方を増やして、そういった方々が池田町で使う観光消費額を増やしていきたいということが目的でございます。そのために何をやるかという、色々ツアーコースの案というのが今出てきているところなんですけれども、それを実際に形にしていくところが今後必要となってくると思います。さらには、そのツアーを担う、案内をするガイドさんを育成していく必要があると考えております。それを今年度中にやりまして、実際にツアーを

展開するのは来年度からという風に考えております。このプロジェクトの目的としては、最後の目的として西濃地域の観光消費額、これが2013年では2,365円とかなり少ない数字なのですが、岐阜県で見ると大体3,500円後半ぐらいございます。それぐらいの水準までを目指していきたいと思っております。飛騨高山はもっと高い数字なのですが、まずは岐阜県のところからと考えております。続きまして、10ページ目をご覧ください。こちらは、移住定住についてのプロジェクトでございます。実はこのプロジェクトについてはまだ生煮えの状態です。今後具体的にどうやるかというのを話し合っていきたいというのが、アイデア工房会議の参加者からは話が出ています。一旦ここで、形で、こういう話が出たよというところについては、紹介をします。池田町の情報発信が分かりづらいということであったり、移住してくる方向けのコンシェルジュ、いろいろサポートしたり、相談に乗ったりという方がいたらいいのではないかという話がありましたので、それが一案として今挙がっております。これをこう、今後具体的にどうやっていくかというところをさらに話し合っていきたい。それに目標に伴って進めていきたいと考えています。続きまして、11ページ目をご覧ください。こちらは「I Love Ikeda」町民による池田の魅力の発信でございます。これについては前回お話をさせていただきまして、平成27年度に実施をしていきたいと思っております。これは池田町の良さを町民が自分たちでレポートをして、写真なり記事なりを、町で形で投稿しまして、それを編集委員、町民の方の協力を得ながらと思っております。編集委員の方々が編集作業を進めて、情報誌にまとめたいと思っております。情報誌のイメージとしては、大体4ページとか8ページのミニ版の雑誌でございます。例えば、るるぶですとか、そういったものがあると思うのですが、そのご当地版のようなイメージをしております。これについては目的としては池田町民に池田町の良さを知るところが最大の目的となりますので、知って、それを進めたいと考える人の割合が70%になるというところを目指したいと思っております。続きまして、12ページ目をご覧ください。「ショートフィルム・YouTubeなどで池田町をアピールしよう」という事業でございます。これは情報発信という一面もあるのですが、一番の目的としては、町民同士のつながりが弱いというのは、オリジナルイベントが少なくて人とつながるチャンスが少ないからという意見がありました。そこで、オリジナルイベントのひとつとして、ショートフィルムコンテストを開催したいと思っております。ショートフィルムコンテストを開催する時に、どうやって人と人との交流を踏んでいくかというところなんですけれども、ショートフィルムというのは、「I LOVE IKEDA」の雑誌を投稿しよう、記事を投稿しようというように、お気軽、簡単にできるものではないです。まずは、やり方を知るところから始まりますので、動画の編集の仕方についての講習会、あるいはその専門的な勉強会というのを開催しまして、そこで参加者同士がつながれるような形にしたいと思っております。さらにその撮影をしていく過程での交流であったり、あるいは完成した後の上映会であったり、そういうところで参加者同士がどんどんどんどんつながれる機会を作っていきたいと思っております。出来た作品

については、せつくなので町民の方はもちろん、町外の方にも発信して、「池田町ってこんなところなんだよ」というのを広く発信していきたいと、思っております。これについては、例えばなんですけれども、池田町に毎年転入してくる方、大体700人ぐらいいるのですけれども、そういった方に「この動画ご覧になりましたか？」というところを聞いてみて、「ああ、見たよ」という方が少しでも増えればいいということで、そういった方が大体6割、420人いればいいという目標を設定しております。続きまして、13ページをご覧ください。こちらは、婚姻率5.1%を実現するために特に肝となる事業、池田町の女性の結婚対策が大事だよというのは、松本委員であったり、石田委員であったり前回お話があったと思うのですけれども、その根幹を成すプロジェクトだと考えています。これについては、今、町がやっている結婚相談所とか婚活パーティというのは参加しづらいという意見が、あるいは「婚活」という言葉そもそもが嫌だという女性目線での意見がありまして、それを受けてじゃあどうしたらやりやすいか、というところで同窓会というアイデアが出ました。そこまでは前回お話しをさせていただいたところなのですが、この課題は同窓会1回きりで終わったらその後本当に結婚に繋がるの？というところが3回目以降の中心でした。そこで1回きりで終わるのではなくて、きっかけとしては同窓会のように集まりやすい場がいいな、というのも、その後は例えば季節毎に茶摘みやバーベキューとか肝試しとか、いろんな季節毎のイベントをやって、度々年に2~3回集まれる機会をその学年で作っていったらどうだろうという話がありました。それを実際にやっていくとなると、同窓会を1回企画するだけでも大変です。継続的にそのイベントを実施していくためには、同窓会応援実行委員会というそういう組織が必要となってくるねという話とそのチームでは挙がっておりまして、実行委員メンバーには池女会の人であったり、役場の人達も入って協同しながら、最初はやっていきたいと考えております。まずは今年度中に、同窓会を2学年絞ってやりたいと考えております。まずは25歳、30歳というところに絞ってやっていきたいと思っております。最終的な目標としては婚姻率を100名程度、1年間で目指していきたいと思っております。続いて、14ページをご覧ください。こちらはママカフェでございます。背景としては、池女会の子育てチームから、出てきた話なのですけれども、子育てに悩んだ時にどこに相談しにいったらいいかわからない、子どもの年齢が上がるにつれて相談相手が変わって、子どもの情報が引き継がれないという意見がありました。このため、この子どもの誕生から自立まで子どもと親の成長に寄り添ってくれる存在が必要だという話がありました。これにつきましては、来年度以降実際にやっていく話でございますが、今年度中から、実は池女会の参加者は「ここで止まってしまわないのはもったいない」、「自分たちでやることをやりたい」という話が出てきて、まずは自分たちでできることとして、どういった場所でどんなことができるかなという内容を、もっと27年度中に町民達だけでまず集まって、話し合っていこうという動きがあります。そういった中で、来年度以降、実際どう形にしていくかというところにつなげていきたいというところでございます。これについては、前回の有識者会議の時に、シング

ルファザー、シングルマザーの方を救えるような、そういうものもあるという話がありました。実際、片親で子育てに悩まれている方がたくさんいる、そういった方が気軽に相談できる場所が欲しいという願いを叶えるものになると思っております。続きまして、15ページ目をご覧ください。これは、職業体験・キャリア教育の充実を通じて、児童生徒の郷土愛を育むというものになっております。これは、プロジェクト名については、町民の方が作ったプロジェクト名をそのまま使っているという形にしております。これについては、最初の発端は池田町の児童生徒から、自分のお父さんお母さんがどのような仕事をしているか、機会が少ないという意見から始まりました。また先ほどご紹介したアンケートでも、目標とする大人が少ない、あるいは地元で働きたいという場所が分かると思っている若者が少ないということが分かりました。そうすると、将来子どもたちが池田町の仕事を知ることなく、町外に出て戻ってこないということにつながる可能性があります。これまでキャリア教育が全く行われてなかったかという点、そんなことはございません。中学でも、実際行われております。ただ全生徒を企業に送り込むということは、学校現場にとって非常に大変なことで、日程調整で誰を送るかということは非常に大変だというのが現状であります。このため、学校側と企業の間で、子どもたちをそこに送って、どんな学び、どんな体験をすればいいかという話し合いが十分にできていない、子どもたちも行ったけど、大事なところが見ることができないまま帰ってしまった、あるいは受け入れる側も、子どもたちが来たけども何をさせたらいいのかよくわからない、そんな声がありました。そういったちょっとギャップの解消をする1つの方法として、キャリア教育コーディネイターという専門の方を配置して、キャリア教育がよりその本来の目的達成となるような形にしていきたいと思っております。最終的な目指す姿としては、将来池田町で働きたいと思う中3・高3生の割合を増やしていく。少なくとも今の倍以上に増やしていきたいと思っております。続きまして、16ページをご覧ください。「子どもの居場所づくり事業」でございます。これにつきましては、まだ具体的な内容については今後決めていくというものでございます。背景としては、不登校の子を持った母親から悩みを相談できる場がない、あるいは不登校に対する地域の理解が足りない、もしくは学校と両親との意思疎通が難しかったという意見がありました。不登校に対して、地域全体での支え合うような仕組みの1つとして、子どもの居場所づくり、学校に通う以外の、不登校の子が居られる場所をつくっていくというものでございます。これについても、どういった場所で、どういうことを、誰がやるかという所については、まだ煮詰まっていないものですので、これは今年度中にさらに話を進めて、その上で具体的な目標を設定したいと思っております。続きまして、17ページ目をご覧ください。これは、「達人から学べ!」で、町の達人と町民の交流の場づくりでございます。つながりが弱くなっている、既存の地域コミュニティには参加しづらいという声がありましたので、体験・学習・文化という視点で、様々な分野での達人を発掘して、達人と町民が触れあえる機会をつくるというものでございます。これは27年度に進めていきたいと思っております、具体的には10

講座程、まず達人を、発掘をしまして、「おんぱく」のような形で1つのパッケージとして1～2ヶ月の期間の中で、順々にやっていく。参加した人達が、中には「このプログラムが面白かった」「この先生すごく魅力的で、今後また会いたい」と、そうなった時に、今池田町の中で、文化講座が約250講座あるのですけれども、そういった、ある講座に、続けて参加していく、そういうふうになったら良いという風に考えております。続きまして、18ページ目をご覧ください。こちらは先ほどご説明をした、「街を明るくするプロジェクト」で、行灯で町を照らそう、町が暗いので行灯で町を照らそうというものでございます。これについても、誰が、どういう基準で、どこでやるかというところについては、まだ具体的に決まっていないので、今後詰めていくプロジェクトでございます。続いて、19ページ目をご覧ください。「空き家ワンコインカフェ」でございます。これは高齢者の方々が日常的にいられる居場所をつくるコミュニティづくりをするというものでございます。このために町はまず活用できる空き家を調査して、カフェになりそうな候補地を探していこうと思っております。さらにはそのワンコインカフェ、こういうカフェを運営して下さる方を募集をしていきたいと思っております。そのカフェを中心として新しいコミュニティが生まれて、高齢者を日常的にコミュニケーションを取れる場所が増えて、人と接する機会が増えるという町を目指していきたいと思っております。続いて、20ページ目をご覧ください。こちらは「ライフサポート強化事業」で、先ほど説明をしました、日常的に、日常生活で困っている高齢者がおりますので、こういった方をサポートする事業が、既にNPOの方がやってらっしゃるんですけれども、もとこれを知っていただいて活用して欲しいところがありまして、そうすることで高齢者の方々が、自宅で歳をとってもずっと元気に過ごせる、施設に入らなくても過ごせる、そういう姿を目指していきたいと思っております。21ページ目をご覧ください。「広域連携による新たな魅力をつくる」というところでございますが、「国内・海外プロモーション事業」西美濃3市9町連携して取り組んでいくものでございまして、西美濃の知名度向上、観光客の増加を目指して、事業を実施していきます。あと、「ツール・ド・西美濃事業」、これはつい先日ございましたが、これを開催をして活性化を図っていくというものでございます。最後に、これは今、長々とすみません、説明してまいりましたが、こちらがですね、まとめますと、これは池田町の大きな課題は3つあると考えています。1つ目は、町のことを当たり前と捉えて、良さに気づいていないこと。2つ目は、人と人とのつながりが弱いと感じる人が多いこと。3つ目は農業の稼ぐ力が弱くて、担い手が減りつつあるということです。これを解決していくことで、町の大人達がまず元気になるということを目指していきたいと思っております。そうすると、町の大人が元気になっていくと、その姿を見ている町内の中高生、子どもたちは自分たちも池田町で活躍していきたい、自分も恩返ししていきたい、というふうに愛着が深まっていったら、町内での職業を選択肢の1つとして考えられるようになると考えています。そうすると、町内で就職すると、今度は結婚という話が出てきますので、結婚できる同世代の人が集まれるような機会をつくることを次にやっていきたいと思っております。さら

に、結婚すると、今度は子育てというのが出てきますので、子育ての悩みが気軽に相談できる場所があることで、安心して子育てができて2人目3人目も産もうというふうにつながる姿を目指しています。最後、歳をとっても、地域の人とつながりながら、健康に自宅で過ごせる生活ができる、そういう姿を実現していくことで、最後22ページ目に、図がございます。池田町の大人が元気になるところが土台として、子どもからご老人まで皆が元気になっていくような、循環していくような、善循環を作り出していきたいと思っております。以上で、説明を終わります。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございました。今、早田理事の方から「ここから本題だ」というような話がありました。ここからが本題でありましょう。皆様から多種多様なご意見をお聞きしたいと思います。小林委員いかがでしょうか。

(サンビレッジ 小林)

はい。結婚できたらいいんですけど、国の統計とか社会学的な分析だと、大体結婚できるかできないかは、年収で決まります。40歳までの結婚している人の割合は、年収200万円サラになると40%。これが400万円や500万円以上になりますと80%です。だから、それからもう1つ、格差をつけないで男女が同じように働ける、こういうところでは、何で結婚しないかという、結婚したら、出産したら、女性は自分の仕事を辞めなきゃ行けないといけなくなる。そうすると、自分が辞めるもんだから働いてほしいと思ふもんだから、旦那に年収をかき上げて言うんですね。そうすると500万とかなってくるん。だけど、それに該当する男性は、日本の男性の4分の1となります。ですから、男女が同じでなければ、就労・結婚ができる、そうすれば男性がどうしても年収が低くても、結婚の見通しが立つ。ということは、男は仕事、女は家庭という風な考えに凝り固まっていますと、女の人は男の年収をどんどん上げてかないと結婚してくれない。200万以下だと40%しか結婚できませんから。池田町の場合は、多少生活費が安くすむので、まあ400万ぐらいでも8割くらいはいくかもしれないけれど、そういうことなんですね。ですから、男と女が安心して働けると、女性だけが仕事辞めなくても済むと、男性だけが稼がなくてもよくて、尚且つちゃんとした15～24歳までの非正規雇用率がすでに51%なんです。非正規雇用ということはそういう場合、年収が200万になってしまう。そういう根本的なところがあるので、出会いの場をたくさん作ろうが作ろまいが、作らないよりも作った方がいいんですけど、そういう根本的な問題がありますね。だから、教育と、結婚と、出産・子育てが、全部一致、私の中ではつながるんですけども、やっぱり今後の社会というのは、結婚という形にはめるかどうかは別として、自分の子どもを残したいというのは生物としての人間もあるとすれば、それを色々な形で叶えた方がいいなあと思うんです。年収200万円以内のままずっといくのは、なかなか厳しいものがある。そう

なると自分の得意な分野をなにかとか、自分得意な仕事はなにかとか、適性はなにかってことを、随分早い内から、まあキャリア教育というのは生まれた時から始めればいいのですけれども。大人も、親だけでは無くて、地域の皆が、先生も見つけて、そしてその力で専門職になっていく、そういう劇的に変わるようなものではない仕事ができるような受け皿をつくるってこと。そういう仕事も、大好きならいいと思うんです。ですけど、こういう統計を見れば、40%以上には絶対ならないとなりますから、そうすると、そういう自分の将来、自分の未来、自分の将来の仕事、力、というのを小さい内から発見して、それをインターンシップでもいい、どこでもいい、これをやりたいという理想の仕事を日常的に発見して、やっていく。地域をあげて、育てるということをやっていくということ、今後の社会で、まずはキャリア教育とか、私はそこに福祉教育がとても大事だと思います。教育はそういう意味を持っているということ。その中に、今子どもの貧困率が高くなっていて、6人に1人の割合で貧困なんですけれども、どんな家庭であったとしても、そのキャリア教育とか、教育の段階では差別されないとか、平等に与えられるとか、そこをやらないといけないな、と思っています。貧困の問題は出ていなかったの。

2番目に、職場で働くことがとっても大事ということが言いたいんですけど、どうということかという、大昔はですね、8割以上はお見合いで結婚していました。でも、途中からお見合いじゃ無くって職場で出会ったり、学校で出会ったりする人が増えたんですね。でも、それも壊れてきている。どうなっているかという、3ヶ月や1年くらいで職場を離れて働く人が多くなってきているので、職場で落ち着いて知り合えないんですよ。年収の問題もあるんですけど、ちゃんとした収入があって、職場で本格的に色んなことを一生懸命やっている、職場で惚れる環境というのがなくなっている。なので、職場で仕事をやって、職場で愛を育むという環境ができて、男は仕事、女は家庭ではなくて、どの人も自分の仕事をちゃんとやる環境がつくられていくことが大切だと思います。

そして3番目に、出産とか育児とかしていても、それは女の人ばかりではないのですけれども、働き続ける環境をつくる。なんでこんな当たり前のことを言うかという、出産、育児とか、保育士だけの話ではなくて、世の中じゅうにブラックな企業もあるわけなんです。例えば、岐阜の労働局に駆け込むような、仲裁とかしてもらうけど、そういうことじゃなくて、その人達が働き続けることができるような、正当な環境を、市や町がですね、仲裁でも何でもして、例えば働き始めた子が、中学の先生や、高校の先生に泣きついてきた時に、市がそれを受け止めて、「ちょっとうちの卒業生が泣きついてきたんですけど、どうですかね」みたいなことを言っていただくといいなと思います。その企業のためにもなるのですけれども、その子達がちゃんと働き続けることができれば、出生率の回復に絶対つながるんですよ。その3つのことを申し上げたいと思っておりました。

1つ目に、キャリア教育とか、小さい内から教育する、仕事につながるような、そのために地域の資料を利用して、働く自分の姿を想像して、しかも仕事をつくっちゃう。そのために、地域の人たちみんな総動員して、助けると。それから、子どもも、貧困な子

どもも、それからそれを絶対見逃さない。それから、そうなると、正規がいいとは言いませんが、コンスタントに専門的な仕事で、年収400万円ぐらい以上稼げると。男女の差別をつくらない。それから、働き続ける職場環境、ブラックな企業をつくらない、そういう3つがあれば、無理矢理出会いの場を増やすんじゃなくても、普通は結婚するというのが、私の考えです。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございました。他、いかがですか。はい、富樫先生。

(岐阜大学 富樫)

先ほど理事が、池田町で働いている人の数が減ってきて、何故だろうということで、ちょっと今統計を見ていたんですね。日本全体でも、生産年齢人口とか減ってきていて、団塊の世代が退職したんですね。それは仕方が無いことなんです。それから産業構造の面でも、工場とか建設業とか製造業とかどうしても減ってくるんですね。それはもう、今の産業構造の変化で仕方が無いことなんです。ただそれを、ある程度サービス業とか医療・福祉とか、それが埋めていくんですね。しかし池田町の場合は、その部分が埋め切れていない。これからも働ける人は段々減ってくるんで、さっきの人口推計と同じ話なんで、それは仕方が無い話だと思っているんですけども、それでもやっぱり町内とか周辺で働ける場所がある。こういう働き方がある。確かに大変なことは大変なんですけれど、こういう面白い仕事をしている人達がいる。先ほどの色んな計画がありましたね。それを、子どもたちとか、あるいは近くの人でね、一緒にやることによって、こういう働き方もあるのかということを知ってもらえればいいと思うんですよ。さっきの正規、非正規の話じゃないんですけどね、必ずしも大きい企業がいいというわけではないんですよ、小さい企業でも非常に面白い仕事にされているところもありますからね。時々紹介させていただいている、岐阜で僕らがやっている「おんぱく」でも企業にも参加してもらって、自分達はこういう面白い仕事をしているんだと、それをまず地元の住民の方に見て欲しいと、それからその情報が周りに伝わっていけば、こういう面白い仕事がここにもあって、いろんな人にも知られているんだってね、地域の元気になっていくと思うんですね。

(サンビレッジ 小林)

「みらい工業」さんは、テレビに取り上げられて、全国区になってしまいましたね。小さいところだったんですけどね。

(岐阜大学 富樫)

他にもいろいろあるんですけどもね。

(サンビレッジ 小林)

それが池田町にあってもおかしくないですし、情報の発信の仕方だと思うんですけどもね。

(岩谷座長)

じゃあ、企業側からの立場から、松本さん。

(工場会 松本)

まず、こういうのを仰せつかってからですね、自分自身も正直言って、これももう第3回目ということで、まったく考えておらなかったのが実情です。こういうことがあって、新聞とかですね、2回、外で、大垣共立銀行さんが行われた時の地方創生のヤマザキシロウさんですね、それと8月21日に創生大臣がグランドホテルでお話があると、それも聞きに行ってきましたね、非常に勉強になるところもありました。先ほどから小学生、子どもからということで、例えばこれ、継続というのは、まったく私もよくわからないのですけれども、僕の隣に高木校長先生かな、小学校の、今は温知か、前は八幡にいらっしゃったと思うんですけども、2年連続うちの工場見学に生徒さんがみえていたんですけども、今年はいらっしゃらなかった。これまたうちの会社も「なんで？」ということも聞かなかったんですけど、高校生もインターンシップは毎年2人ずつ来ているんですが、基本的に方針が変わったので来なくなったのか、全くモノにならなかったのか、自分でも全くよく分かっていないのですが。先ほどからPRとかいろんなことが出ているのですが、まあ先ほど私が冒頭で言いました通り、自分自身も知らない中で、まずこの地方創生会議を池田町でやっとなら、何人の方が、どれくらいの方が知ってみえるかってことですね。これは、本当にここの中にいる人達は素晴らしい人ですし、この会議をまずはどのくらいの方に広くPRしていけるかってことが、僕はものすごく肝心ではないかなという風に思いました。

それから、第2回目の時に子どもを産める女性という言い方で話をしたかなと思うんですけど、基本的にどこで人口が増えるかということ、女性しかないということ、当然男性も必要なんですけれど、そこで僕はこの素晴らしい総合戦略の中で、是非上手くいったら、一番に女性にお金を使っていたきたいという風に思います。この交付金、これは何故かということ、石破さんがそれはしきりに言ってみえました。「お金はどんだけでも払う」という、「支給する」と言ってみえましたから、そういうアイデアとか戦略方法をね、どんどん見ていくのがいいとそういうふうに思っております。それから工場の立場から、工場会の立場から申し上げさせてもらおうと、やはり今までは単独で、お互いに、町もどんどん仕事が増えてくると、どんどん、どんどん増えに増えているということで、やはり工場としてもね、子どもを預ける託児所なんかもね、単独で企業がやるとかということじゃなしに、町ぐるみで、例えば本当に企業としてはね、いいか悪いか分かりませんが、どち

らかというと8時から始まる場所は8時スタートにしたい、やけど女性は子どもがいるから8時からの出勤は難しいから会社に行けるのが少ない。そういうこともやっぱり先に考えてやっていただく、結婚して子どもつくったらどうするかということを考えていただく。

それからもうひとつは、これも石破さんが言ってみえたんですが、3人以上子どもがいる家庭というのは、夫婦同じ仕事をしている。仕事というか、男性が女性の家事仕事をしてみえる家庭は、子どもさんが多いところを言ってみえました。

今後は、第3回も終わりましたから、少しでもね、工場会の時、私たちも前回は言いましたように、本当に魅力がある工場づくりということを考えながら、これからもやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。はい、勝野さん。

(女性セミナー 勝野)

はい、今、良いことを言ってもらいました。私、前から皆さんと話していたのですが、女性の働き方です。子育てをしている時は、今の状況では難しいですね。企業さんの理解も必要ですが。

例えば、女性が自分達でNPOを立ち上げることです。例として池田町では高齢者のお弁当作りを地区のボランティアで行われています。それを他市町では女性だけでNPOを立ち上げ、子育て中でも働きやすいように工夫しているところも多くあります。そのための支援もあります。池田町でのそのような機会があるとよいと思います。

また池田町内、近隣の市町で働く場所やボランティアはどんなものがあるか分かると思います。

特に子育て中の女性は行動範囲も限られていて把握できてないように感じています。そのためにも知る機会があるとよいと思います。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。石田さん、お願いします。

(大垣共立銀行 石田)

金融協会代表、石田です。先ほど、早田理事の方からもご連絡があったかと思うんですけども、先ほどいただきました15のプロジェクト、これはいわゆる若い方からご年配の方、そして男性・女性と、ほとんど池田町の住民の方が全て関わるような、細かく見れば全て関わる、そういう内容になっていると思います。そのなかでこれを実践することによって、2060年の人口2万人ですね、これが最終的に達成するための計画だと思うん

です。具体的な行動計画がつくられているもののと、当然そうでないものがこの中にある。先ほどからみなさんおっしゃっているように、こういうプロジェクトが池田町でしっかり15個動かしているんだよってことをきちっとPRして、池田町の方がきちっと認知するというのは、やっぱりとっても大事なことだなと感じております。ただ一部の方の盛り上がりだけではなくて、こういうものがあるということがきちっと周知できるということが大事なんだなと思います。

それから、金融機関の代表ということで、この立場からお話をさせていただくと、プロジェクトのですね、「6次産業化」、いわゆる販売対策のマッチングのところなんですけれども、実際池田町にあるところの6金融機関のところでも、いわゆるビジネスマッチングというのは、かなり以前から行われております。実際我々が携わったマッチングでも、かなりテーマを絞って、例えば「食」とか「食べ物」ですね、それから「製造業」、例えば「製造業」と言っても、いろいろあるんですけれども、例えば「航空機」であるとか、「食」の「食べ物」であれば、もう少し具体的にスイーツとかね、スイーツの紹介とか、かなりテーマを絞ったそんなビジネスマッチングを過去からやってきております。いわゆる今回のプロジェクトの中にも、いわゆる池田町の金融協会の会員の金融機関で、やっぱり色々ノウハウを持っています。ただマッチングに参加して、こんなんがありますよと、ということをしてPRするだけでは、とうてい売れません。やはりそういう情報提供については、金融機関を上手く利用するといいかないという風に思いますし、我々もきちっとサポートしますので、そのように考えております。

それからもうひとつ、企業誘致。これについても、なかなか企業誘致というのは、非常に難しいのですが、これは金融機関が持っているネットワークというのをうまく活用して、いわゆる池田町にこういう工業団地がありますと、将来高速道路がこういうふうにつくって、ここにこういうのが用意されていますということを、やはり池田町の中では池田町の工業団地を使用するということがあまりないので、例えば東濃の方がこちらに進出されたり、場合によっては、愛知県の方が池田町に進出したりというニーズもありますので、これらの金融機関のネットワークをうまくご利用いただいて、池田町の企業誘致というのを成功に導けたらなというふうに思っております。この辺については、金融機関としてはきちっとサポートしたいと思っております。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。大変お力強いお言葉をいただきました。遠藤さん、いかがですか。

(農業代表 遠藤)

まあ、私こんな偉い人達ばかりだと、私は百姓ですし、「農」のことしか頭にないんですよ。もう、ゆうに40町超えて、50町ぐらいの田んぼをやっているんですけれども、

担い手さんは出てこない、もう農地は皆から預かって、お守りしてかなくてはいけない。なんとかしたいんですけど、担い手さんは出てこない、金はもう安く、ほとんどがサラリーマンにみんないっちゃっている。「農」で食べていけるような生活ができちゃあ、いいんだけど。なかなかそこまで、光が見えてこない。今、真っ暗けな状態です。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。では、松岡さん、どうですか。

(商工会 松岡)

まあ、今お話を聞いておりますと、重要なお意見ばかりでございまして、私は理事さんの話をずっと聞いておりましたのですけれども、大まかに言いますと、やはり「池田町で働く」ということに関して、「働くところがあるか」という問題と、今の社会構造が変わってきてまして、子どもさんが大学に行きますと、大学行かせたら地元で働くか、働くところがあるか、という問題が出てくるんですね、だから先ほど小林先生がおっしゃいました通り、池田町で働いても、400万～500万もらえるような企業がありますか？と。

(サンビレッジ 小林)

全国平均で、ここ西濃は生活費が安いので、200万でも大丈夫だと思います。

(商工会 松岡)

いやいや、現実にそんな初めから大企業みたいな給料はでないと思うし、それと今の社会構造が、大企業が地方に来ているわけなんですね、そうすると、地元で働こうとしても大企業は転勤とかいろんなことがある。下手すれば、海外とかいうこともありますし、やはり大学へ出て、まあまあ一流の企業とかに入ると、地元で働くことが不可能になってくる。そういう関係が今の社会情勢にあるわけであって、これを「池田町で働きなさい」というのには、ちょっと私わからないところがあるわけなんですから。

すると、私この有識者会議で一番初めに申ししたのは、ここに書いてあるおじいさんおばあさんの会話と子どもだけの会話というのがありましたのですけれども、教育だけの、成績だけのことを申しますと、ずっと昔テレビでやっていましたけれども、秋田県が小学校中学校の成績が全国1位というようなことがテレビでやっておりましたが、やはり3世代の家庭は、非常に秋田県には多いというようなことで、やっぱり教育関係に関しても家庭環境によって変わってくる。今、核家族が非常に自然的に核家族になっていっている。親と住みたくないという環境であるかもわかりませんが、そういうところの家庭内の組織というところから、随分今の社会情勢が変わってきているということで、これが実現できればと私も思うのですけれども、地元で働けるところ、年収がまあまああるところ、多世代で住めるところということにおいて、変わってくると思う。最近それが崩れてきて

いるということに問題があるんじゃないかということでございます。以上でございます。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。では、JTBの長野さん。

(JTB中部 長野)

はい。私、外の人間なので、池田町に農業等どういった産業構造が、ものがあるかどうかということがわからないのですが。先ほど15個上がってきました。中でもですね、多分15進める形で考えていくのが大変だと思うので、いろんなところでくつつくがあると思うんですね。私に関する部分だと、観光ということになるのだと思うのですが、例えば6次産業化の問題だとか、体験の交流の部分だとか、こういったものについてはうまくまとめてですね、その中に部会と言いますか、交流をつなげるような形でやられていくと、多少スムーズに、15個出てきたことを進めやすくなるのかなと思います。先ほど、遠藤さんから農業のお話が出てまいりました。国やなんかでも観光と他の産業をどうやって、観光を使ってです、それをどうやって進めていこうか、いわゆる体験というのを特に色んな省庁でも、ものづくり体験だとか農業とかそういう場で体験プログラムというか体験という名前を出して進めていきたいと思いますというの、来年もう少し出てくると思う。そういった中ではつくるだけじゃなくて、6次産業化というふうに色んな体験の場を与えて、例えば「6次産業化」もしくは先ほどの「農」の話もありましたけれども、じゃあインターンシップをやっているときに、農業という現場に、例えば子どもさんたちを出しているのか、どうなのかもわからない。例えば「6次産業化をこうやって進めましょう」、「農業を応援していきましょう」ということであれば、これは子どもたちの教育の現場の方から、もう少し考えていく。例えば「儲かる農業」だったら「今年ちょっとお金が入る農業をしていこう」という場合にも、本当にお金がもらうということは、観光なんかそうですけども、やっぱりサービス・競争力を上げていかなければいけない。なので、そういう時どういうふうにお客さんが思っているのか、何をすれば喜んでいただけるのか、それをお金として代価に代えていかなければいけないんですね。それをやっぱりやっていくというのは、いわゆる事業者の皆さん。もしくは農業の皆さんもそうなのかもしれません、そういった人達がもっともっと経験を積んでいく。いわゆるお客様の声を聞く場をつくっていく。そういうことが必要になるろうか、と思っておりますので、是非町としてはそういった部分も、回数を増やしていく、場を増やしていく。じゃあそのために何をやればいいのか、やっぱり考えていくというのが必要だと思います。ちなみにちょっと私岐阜に仕事していた時に、岐阜県の観光連盟さんに「もう少し修学旅行の誘致に取り組んではいかがですか」というお話をしてみました。「それはちょっと、いわゆる県の観光の方針から外れるので、あまり考えていません」ということだったんですけども、方や同じような地域という長野県を見ると、修学旅行誘致、これはまあ首都圏から来ているというのもあります。それ

はそれだけのマーケットがあるということもあって、色んないわゆる農業関係の方々が組織をつくってですね、観光農業までつくってやってらっしゃるんですね。これはどんどん来ていただくことによって、そういう場を作っていく、盛り上げていく。経験を積んでいただいて、スキルアップを、レベルを上げていっているわけです。岐阜県においてはそういった場が、ちょっと少ないのかな。ある高校の校長先生ともお話していたのですが、わざわざ遠くに修学旅行行かなくても、本当は岐阜県内でやっちゃえばいいですよ。校長先生は、まさにそうだよ、と。もっとももっとこういう場で経験を積ませて、例えば農業とか岐阜県内のいろいろあるところを見せて、それで固めていくようにしていただくか、いわゆる自分たちの地域が持っている素晴らしさなんかを見せていく。それが必要なのでしょうか、という話をしていましたので、是非、多分学校なんかもそういうことをするとかなり絡んでくると思うんですけども、やっぱりもっと自分たちの地域を見せるためとか、わざわざ遠くに行かなくても地元でできるということを知っていただくということ、提供できるということ、そしてその中から、地域の人達が結びついて一緒にできることは見えてくると思うので、もう少し身近な中でもこれからやっていく作業だと思うんですけども、そういった風にして観光を活用していただくというか。観光というのは手段ですので、そのために地域がどうなっているのか、その産業がどうなっているのか、そういったものを取り組んでいただけるいいというふうに思います。そういった面で私どももお手伝いさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。それでは、養老鉄道の中澤さんお願いします。

(養老鉄道 中澤)

はい。私どもも観光だとか広域連携等の部分でございますので、その中でこの資料を拝見させていただきまして、2ページにございます池田町の体験・交流ツアーとか、それから21ページの広域連携による圏域の新たな魅力づくりというものにつきまして、本当にこういうことが大事だなと、そういうふうに私どもも本当に感じているところでございます。やはりこの中でPRを積極的にしていきます、というような中で、私どもがやっぱり気をつけているのが、時期、ターゲットを絞って、具体的な計画を立てて、これを自社のウェブサイトで公表するだけではなくて、旅行会社さんとの連携というのも積極的にやっていく必要があるということ、そこ心がけているつもりでございます。旅行業者さんの中でもやはりJTBさんのように総合力で非常に活躍されている会社さんもいらっしゃいます。非常にニッチな部分を専門にされる旅行会社さんもおられます。商品に応じて旅行会社さんとの連携とかいうことも、しっかりやっていくべきなのかなというふうに思います。やはりこういう新しい事業をやっていくこと、新しい情報を発信していくことにつきましては、1回きりで周知するということはまず無いです。やはり根気よく長い時間をかけな

がら、やっていく。少しずつ成果を上げて、業績をどんどん増やしていくということを、考えるべきだと思います。これは実は一番難しいところなんですけれども、そういうことをやるために官民一体となって、取り組んでいく必要があると思います。我々が養老鉄道という広域を繋ぐインフラ企業でもございますので、そういう部分でもこの池田町さんで他の地域との連携の中で、当社の果たす役割をしっかりと果たして行きたいと思っています。よろしく願いいたします。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。それでは、国枝さん。

(町教育長 国枝)

私は、教育ということで、子どもたちのことなんですけれども、やはり先ほどから地域に愛着を持つという子どもたちを、もう今から育てていかななくてはならないという面で、大人になって地域に戻るのではなくって、今居る子どもたちに自分の地域に愛着を持つ、そういった地域の中に生きられる自分がいるというそういう場面をたくさん作っていきたいというふうに思っております。というのは、今池田町は福祉教育とか、英語教育に重点を置いて取り組んでおります。その福祉教育をやるにあたりまして、各ボランティア施設や、地域の福祉運動会や、この間も地区の運動会がありましたけれども、その中に、今年も中学生の子達が大変多く参加しておりました。今から何年も前に募集をかけた時には5人集まるかどうかくらいの人数だったんですけれども、昨日の温知小学校ではボランティアの子が60人集まっていました。それから池田小学校でも、何十人という数になりました。同じように養基の方でもそういう子どもたちがたくさん、競技だとか司会進行だとか、そういうところで本当に活躍しておりました。そういうことを初めは躊躇いもあったと思いますし、自分たちが中学生になったからちょっと違う、とかじゃなくて、初めにそういうことをやった中学生を小学生の子達が見ているわけですね。見ているから自分が中学生になった時に、じゃあ自分もこういうふうにして小学校の母校に帰ってきて、地域の皆さんと一緒に運動会の時にこんなお世話をしよう、ということが、それがすごく自然に育ってきて、それから地域の方も中学生の子に「ありがとうね」「ようやってくれたね」というふうにして見ている、褒めて受け入れていてくれるんですね。そういう積み重ねによって、子どもたちは自分の居場所というか、地域のなかで認められているという感覚と気持ちを持ってくれると思うんですね。そういう気持ちが、大人になって大学に行ったりとか、社会に行ったりとか、あるかもしれませんが、やはりこの地元へ愛があつて戻ってきてくれた子は、やっぱりこの池田町を非常に大事に思ってくれるのではないかというふうに思います。ずっと前ですけども、テレビである学校のことを紹介していたのですが、廃校になってしまう学校で、廃校になってしまう学校の小学生や中学生の小さな学校ですけども、全部の子が、10年後の私に手紙を書いていたんです。それで、10年後にそ

の同窓生の子達が皆集まってきて、例えば9歳の子だったら19歳、15歳の子だったら25歳の子が、その子達が全部集まってきて、自分はどんなことを書いていたかというのを、将来自分はどういうふうにその地域に貢献できているかというようなことを書いているらしいんですけども、その催しがとても素敵なことだなと思いました。今、同窓会を今度やるとか、25歳とか35歳とかでやるという、今の人なんですけれども、そういう措置をもうずっと前からこうして、今年60周年の節目ですので、あと10年後の70周年の時にその子達が池田町に残っていたら、ちょうどいい、そういう年頃の子達になりますので、夢があつていいのかなあと思ったりしてみます。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。今発言されておられない方であえて発言されたいという方はおられますか。馬田さん、廣田さん、それから竹中さん、小林先生、よろしいですか。これは最終的なあれになりますんで。はい、竹中さん。

(民生委員 竹中)

まあ、こういうところで言うのがどうかという気がしなくもないんですけども、先ほどからお話がありましたとおり、女性にもっとお金使ったらどうだとか、家計の収入を上げないと結婚なんかできないよという話だとか、あるいは池田町に住んで、安心して働ける池田町とかいう中で、池田町の職員さんの中には、いわゆる臨時職員さんが非常に多いんですね。何人いらっしゃるか数えていません。数えていませんですけども、ある時非常に多いなというのに気がつきました。これは、先ほどの収入を増やすとかですね、安心して働けるだとかいったようなところから見た時に、池田町のひとつの特徴というか、他に無い、もしかしたら池田町の職員は全て正職員ですというような募集にするとしたら、多分周辺の市町村にはないようなものだと思います。なので、池田町の魅力になると思うんですね。当然予算の問題がいろいろある気がします。ただ民間企業であれば仕事が多いとか少ないとか、この不景気の中でね、臨時職員というのはわからないでもない。ですが、今世の中で働いている中で、パートだとか、いわゆる正規社員、非正規社員の差がどんどん大きくなっている。何年働いてもなかなか給料が増えない。というのが色々問題にされているんですね。そういう中で、できるかどうかはわかりません。例えばその町の方針がどうなっているか、わかりませんが、先ほど言いました私の疑問で、ずっと思っておりましてね。職制を見せていただくと、なんで町の職員なのに、臨時職員がこうもいるのかと、池田町の町報を見てみると、募集があるのでですけども、「採用期限来年の3月まで、見直すこともありえます」と書いてある。町の職員で3月までとかいうような、期限がはっきりしているようなものは無いと思う。そういうものが、率先して、例えば町が改善していけば、誰が見ても要するに少なくとも若い女性の方が多いと思いますから、私は是非とも池田町に就職したいとかね、あるいは池田町にどうせ結婚してきたんだから、

池田町の職員かなんかに働きたいとかいう気持ちが自然に起きてくるというふうに思うんです。先ほどから色々意見がある中で、たまたま私が疑問に思っていたものですから、ひとつのこういう具体的なものと関連づけられるどうか、別ですけれども、いつかはこういう発言をしておきたいなと思ったものですから、一言。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。もう時間も来ました。皆様から様々な御意見をいただきましたので、ご意見を踏まえた上で加筆修正等を加えて、最終案と致したいと思いますが、この最終案は座長一任でよろしいでしょうか。

【異議無し】

(岩谷座長)

よろしいですか。それでは、座長一任とさせていただきます。実は今日答申をすることになっておりまして、答申案はこちらの方で持つておるのですが、これを本日町長へ答申させていただきます。そして先ほども申し上げました通り、皆さんからいただいたご意見を入れ込んだ中で、あとで差し替えをさせていただきますので、それでよろしいでしょうか。

【異議無し】

(岩谷座長)

それでは、そのようにさせていただきます。短い時間ではございましたが、貴重なご意見を下さいまして有り難うございました。非常に良い議論になったのではないかなと思っております。これをもちまして、満場一致で結果を得ることができました。今後は総合戦略の進捗管理につきましては、みなさまのご協力をたまわりたいと思っております。座長といたしまして、本当に拙い進行で、皆様方にご迷惑を掛けたのではないかというようなことを思っておりましたが、私としては、皆様方のご協力の中で議事がスムーズに進行を努めさせていただいたことを嬉しく思っております。全3回にわたりまして熱心なご協議をいただきまして、本当にご苦労様でございました。

それではこれより事務局に進行を変えますので、よろしくお願いいたします。

(小川企画課長)

ありがとうございます。今、議長の方からお話がありましており、これから町長の答申ということで、この場でさせていただきたいと思っておりますので、今しばらくお待ちください。

(早田理事)

すみません。ひとつアナウンスをさせていただきます。修正のことは、今週の短い間で恐縮なんですけれども、水曜日までに、何かございましたらご連絡を下さい。それと、ひとつ。地方創生徳島神山「人がつなげる地域づくり」講演会へのご案内という一枚紙を配布させていただいております。こちらは、偶々池女会に参加した方の1人が徳島県神山町に自分自ら研修に行ったことがありまして、徳島県神山町は人口6100人の過疎地域でございます。池田町の面積の3倍、そういうところで地方創生に成功した町がございます。そこで地方創生に積極的に取り組んでいた祁答院さんという方がこちらにいらっしやって、そちらでどんなことがあったかっていう講演をして下さる予定がございます。日時は11月13日金曜日の6時半から8時まで、場所は宮地公民館ということになります。もしよろしければ、いらっしやっていただくと幸いです。申込みについては私の方までご連絡をください。どうかよろしくお願い致します。

【岡崎町長 入席】

(小川企画課長)

それでは、3回にわたり池田町地域創生有識者会議にご参加いただき、議論、検討していただきありがとうございました。先ほど議長よりお話があった通り、「人口ビジョン・池田町版総合戦略(案)」につきまして、有識者会議座長の岩谷真海様より岡崎和夫町長に答申を行っていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

【答申】

(小川企画課長)

それでは答申をしていただきました岡崎町長より、御挨拶をいただきたいと思っております。

(岡崎町長)

皆さん、こんにちは。皆様方にはそれぞれの立場の中でお忙しい中、長期間にわたって有識者会議の中で、池田町のこれからあるべき姿、人口について、議論をしていただきました。またその前座としては、町の方で公募を掛けさせていただいて、アイデア工房会議・池女会、それから多くの皆様方にも参加をしていただいているという、アイデアを渡していただいております。その発表会も聞かせていただきました。これから5年、10年先を見据えて、本当に池田町を心配し、池田町を愛し、池田町を想って、いろいろな面でお話をさせていただきました。その内容を聞かせていただいて、私は池田町がまだまだこれから先、安心である。やるべきことがたくさんある。それと同時に池田町のこういった大

切な資源を活かして、魅力ある池田町をつくれるものと、そんな確信をさせていただきました。そして、それを受けて、この皆さん方で専門的な立場を踏まえて、色んな面でご意見をいただきました。それを答申としていただきました。この中身をこれから精査させていただいて、これから5年間、あるいはもっと先を見据えた池田町のまちづくりをしていきたいと、そういう思いであります。今日で終わりではありません。皆様方には長期間にわたってご参加していただきましたが、またこれから検証しながらやっていくことがさうとう出てくると思っておりますし、まあ国の方においても今年度の交付金が月末に決まってくる。あるいは来年に向かっての予算関係も出てくるということでもありますので、そういった面を見ながらやっていく。そして来年少しずつ見直しをして、これが駄目だったからいかんということではなしに、少しずつ手を加えて、改良して、そして一步一步前進していく。そんなことが大事じゃないかな、と。そして、行政が、あるいは議会がやるべきではなしに、行政・議会それから町民の皆様方と一緒に、知恵を出しながら、やっていきたいと、そんな思いでありますので、宜しくお願ひしたいと思ひます。非常に、またご支援いただきますように、お願ひしたいと思ひます。色々な面で、長期間に渡りまして、色んなご考えをいただきましたことを、改めて厚く御礼を申しまして、挨拶に代えさせていただきます。本当に、有り難うございました。

(岩谷座長)

どうも、有り難うございました。

(小川企画課長)

本日は、お忙しい中、有識者会議にご出席いただき、ありがとうございました。町長からお話になりましたように、今後は事業個別において、皆様に協力ですとか、ご依頼をさせていただくと思ひますが、その折りには宜しくお願ひいたします。これを持ちまして、池田町地域創生有識者会議を終了いたします。ありがとうございました。(了)